

黒島伝治
kuroshima denji

豚群
Tongun

橇
Sori

凍え死ぬだけのシベリア軍役、飢えて苦しむほかにない農地、肉体も精神も麻痺していく工場——不条理を超える「無常」を夢映画のように語れた才能! 荒俣宏

地を這い、空高く渦を巻く物語——
昭和初期の傑作が今こそリアルに。

講談社文芸文庫
Kōdansha Bungei bunko



黒島伝治
橇
一月君

ヒーモアと

くまぐま

目次

電報

二銭銅貨

孟蘭盆前後

豚群

彼等の一生

櫓

渦巻ける烏の群

パルチザン・ウォルコフ

浮動する地価

七

三

二九

四

五九

八三

一〇九

一五〇

一八三

前哨

三三

人と作品

勝又 浩 三三〇

年譜

戎居士 郎 二四

著書目録

二六

昭和初期に隆盛したプロレタリア文学運動の潮流の中で、写実的な文章と複眼的想像力による傑作短篇を立て続けに発表して一躍脚光を浴びながらも、肺病による喀血から郷里・小豆島での療養生活を余儀なくされた黒島伝治。官憲の横暴に対する農民の知恵がドラマを生む「豚群」、戦争の悲惨さと裏腹の滑稽な現実を鮮やかに描いた「糞」、**「渦巻ける鳥の群」**など時代を超えた輝きを放つ代表作集。



9784062903561



1920193014006

ISBN978-4-06-290356-1

C0193 ¥1400E (0)

権
豚群
黒島伝治

◀ J1

定価：本体1400円(税別)

勝又浩

今度読み直しながら、一編の説話的な展開のなかにこんな、実存的とも言いたいような情景が描かれていたことに気付いて私は驚いた。そうして、こういう一節、描写があることによつて、説話的な教訓話が一挙に陰影の深い近代小説に、農民文学、プロレタリア文学という枠さえも越えて、人の運命とか、宿命とかと考えさせる近代小説に生まれ変わっていると知つたのである。

「人と作品」より

現実の重さ

講談社

Y1400

黒島伝治(1898・12・12～1943・10・17) 小説家。香川県小豆島生まれ。地元の醤油会社に勤めた後、上京。1919年早稲田大学高等予科に入学するも、同年に徴兵されてシベリア出兵にも従軍、22年兵役免除まで日記をつける。25年同郷の壺井繁治の尽力で小説を発表し始め、翌年日本プロレタリア芸術連盟の「文芸戦線」同人となる。27年には労農芸術家連盟の創立に参加、30年文戦打倒同盟を経て日本プロレタリア作家同盟に合流。作品には伏せ字も多く、30年刊行の『パルチザン・ウォルコフ』、『武装せる市街』は発禁に。33年に肺病の療養のため郷里小豆島に戻り、特高の監視を受けながら同島で生涯を送った。

文芸文庫は毎月10日発売です。

最寄りの書店でご購入ください。お近くに書店がないなどで直接購入をご希望の方はネット書店へのご注文をお願いします。講談社BOOK倶楽部からもネット書店へリンクしています。

●講談社BOOK倶楽部 <http://www.bookclub.kodansha.co.jp/>